



年に一度のご開帳
佐谷建正寺

県の重要文化財（彫刻1号）に指定されている、佐谷建正寺の「木造十一面観音立像」が、4月2日（日）に多くの人たちにその姿を見せました。

同像は平安時代後期、伝教大師によって彫られたと伝えられ、地区の人たちをはじめとして多くの人たちにまつられているものです。

この日は、あいにくの雨にたたられましたが、たくさんの人たちが参詣し、地元の人たちによる甘茶や食事の接待、子ども会の奉納相撲、花祭りなどが行われてにぎわいました。

ゴミを捨てないでください

自然との共生をモットーに環境整備活動を続けている、けやき会（高橋重義会長）が3月21日（火）に、須恵ダム周辺のフェンスにゴミ捨て禁止を訴える看板の設置作業を行いました。

これは、命の源である須恵ダムの水を守ろうと行なったものです。この日は9人の会員が参加して、雨が降る中で作業が進められました。

高橋会長は「この看板を見てゴミを捨てる人が少しでも減ればありがたいです」と話されていました。



地域奉仕に小鳥の巣箱を設置

サクラが満開の4月8日、城山区の有志（小山田英生さんほか8人）らが、町立皿山公園一帯の樹木に小鳥の巣箱を取り付けました。

「町の施設などにはいろいろとお世話になっていますが、地域奉仕活動の一つとして取り組んだものです。」

巣箱の取り付けは昨年に行なっていたもので、昨年は美術センター久我記念館周辺の樹木に19個を、今年に皿山公園一帯に110個を取り付けました。

巣箱をつくられた中尾勝次さんは「美術館は日本画の個展でお世話になりました。何かお返しができないものかと思って巣箱づくりを思いつきました。巣箱はスギ板を使い、穴の大きさなど難しいこともありましたが、無事に取り付けができてよかったです。」

美術館や皿山公園一帯が野鳥の宝庫になってほしい...と話されていました。

また、巣箱の取り付けにかけた小山田さんは「美術館と資料館は毎朝の散歩コースでお世話になっています。」

巣箱は巣穴が西向きにならないように注意して取り付けました。野鳥の観察、散歩での楽しみが増えました。

また、誰か、オオルリなどが巣箱に小枝や落葉などを運んでいるところを見られたら、美術館や資料館に知らせしてほしい...とも話されていました。



バクハックラブ
力をあわせて準優勝！

第31回少年・第44回少女ドッジボール福岡大会が、3月18日（土）に福岡市九電記念体育館で行われました。

この大会に、本町から須恵バクハックラブとBIG・SHOT・SUEが出場しました。その結果、須恵バクハックラブ（長澤清美監督）が激戦を勝ち抜き、準優勝をおさめました。

大会は、福岡県や大分県などから56チームが参加して行われました。



松下隆三さん
春の日本一目指して全国大会へ

第7回全国高校選抜ラグビーフットボール大会（日本ラグビーフットボール協会、全国高体連ラグビー専門部主催）が、4月3日から埼玉県熊谷ラグビー場で行われました。

この大会に、松下隆三さん（須恵区・17歳）が選手登録する福岡高等学校が、春の高校日本一を目指して出場しました。

この出場報告のため、3月28日（火）に同校ラグビー部の森重隆監督と来庁した松下さんは「24年ぶりの全国大会で古豪復活をアピールしてきます」と話されていました。



鯉のぼりトンネルで
一日が始まります

布絵本すぎの子（杉の子文庫布絵本の会=改称）が、4月4日（火）にかやの保育所に、布で作った鯉のぼりトンネルと布の絵本を寄贈しました。

布絵本すぎの子では、これまでも町内の町立幼稚園に鬼の的あてや布絵本を寄贈し、布で作った布芝居の読み聞かせなどを行ってきました。

寄贈を受けたかやの保育所では、毎朝登園してきた園児たちが鯉のぼりトンネルを出してきて、トンネルを通ることで、子どもたちの一日が始まります。

同すぎの子の会員は「会員一同、これからも町内外の施設の子どもたちと、布絵本や遊具を通じふれあっていきたいと思っています」と話されていました。

